箱庭制作者と評定者における心理学的タイプと作品の印象評価

○佐藤淳一¹

(1 武庫川女子大学)

キーワード: 箱庭療法, 印象評価, 心理学的タイプ

Relationships between Jung's psychological types in makers and raters and the impression of sandplay works

Junichi SATO¹(¹Mukogawa Women's University)

Key words: sandplay, impression rating, psychological type

目 的

児童思春期の心理査定において描画や箱庭を用いられることが多いが, それらの評価・理解においては制作者 (クライエント) 側の要因だけでなく, 評価者 (セラピスト) 側の主観的, 印象的评价も重視される。しかし, これまで印象評価に関わる評価者側のパーソナリティ要因は十分に検討されてこなかった。たとえば, これまで箱庭作品の評価において, 評価者の性差, 臨床経験, 心理学的タイプが関与することが報告されている (木村, 1985)。しかし, 具体的な印象評定の違いまでは明らかにされていないこと, 心理学的タイプの判定に Q 分類を用いていること, 制作者側の心理学的タイプも含めて検討されていないことが課題として残されていた。そこで本研究は, 箱庭作品の制作者と評価者のパーソナリティ特性が作品の印象評価にどのような影響を与えているのかを明らかにする。

方 法

箱庭制作の調査は, 箱庭制作, 心理学的タイプの測定尺度 (佐藤, 2005) の順で, すべて筆者が個別法により実施した (佐藤, 2016)。JPTS は, 「外向-内向」 (Extraversion-Introversion; E-I), 「思考-感情」 (Thinking-Feeling; T-F), 「感覚-直観」 (Sensation-Intuition; S-N) の下位尺度から構成され, 各 9 項目対, 計 27 項目からなる (佐藤, 2005)。調査協力者は臨床心理学を専攻としない大学院生 32 名 (男性 16 名, 女性 16 名; 平均年齢 24.3 歳) である。一方, 箱庭作品の評定者は, 箱庭について基本的な研修を受けた臨床心理学専攻修士課程院生 18 名 (女性, 平均 23.1 歳) とした。手続きとして, 作品ごとに箱庭評価尺度を用いて評価し, その後 JPTS に回答した。各作品の評定については, 箱庭作品の印象評定尺度 (岡田, 1969) 12 項目, 箱庭作品の了解尺度 (木村, 1985) 3 項目を用いた。

結 果

制作者の心理学的タイプの判別は, 判別不可の人を除くと, E 群/I 群では 12 名/17 名, T 群/F 群では 4 名/28 名, S 群/N 群では 13 名/16 名であった。評価者の心理学的タイプの判別は E 群/I 群では 2 名/6 名, T 群/F 群では 3 名/5 名, S 群/N 群では 4 名/4 名であった。印象評定尺度得点にバリマックス回転の因子分析を行い, 「エネルギーイメージ」因子 4 項目 ($\alpha=0.89$), 「柔らかさ・まとまりイメージ」因子 5 項目 ($\alpha=0.83$) を抽出した。

次に, 制作者と評定者における一般態度を独立変数, 印象評定尺度と了解尺度を従属変数とした分散分析を行った (Table 1 参照)。その結果, 「エネルギー」「まとまり・柔らかさ」「箱庭作品の了解」については制作者の一般態度の主効果が認められ, E 群の制作者が I 群よりも有意に高かった ($F_{(3,518)}=42.08, p<.001$; $F_{(3,518)}=5.52, p<.05$; $F_{(3,518)}=8.81, p<.01$)。また, 「箱庭作品の了解」については評価者の一般態度にも主効果が認められ, I 群の評価者が E 群よりも有意に高かった ($F_{(3,518)}=6.98, p<.05$)。

考 察

箱庭作品の印象評価には制作者の一般態度が関連し, 作品の理解度には制作者とともに評価者の一般態度も関連していることが明らかになった。作品の印象評価において E 群の作品は I 群よりも「エネルギー」や「まとまり・柔らかさ」のイメージを高く示した。これは, 内的世界の表現をねらいとしながらも玩具を選び砂箱の中に表現するという箱庭制作の行為は外界への心的エネルギーが求められたためと考えられる。一方, 作品の了解において I 群の評価者は E 群よりも作品を理解しやすいと評価していたのは, I 群は内的世界の表現に親和性を抱きやすく, それが箱庭作品の理解しやすいにつながったと考えられる。

(SATO Junichi)

Table 1 制作者と評定者の一般態度別に見た箱庭作品評定尺度の分散分析結果

箱庭作品評定尺度		制作者のタイプ				主効果		
		外向		内向		制作者の タイプ	評価者の タイプ	交互作用
		評価者のタイプ		評価者のタイプ				
		外向	内向	外向	内向			
「エネルギー」	M	19.13	18.42	12.19	12.33	131.24 ***	0.25	0.54
	SD	5.31	5.20	5.75	5.28			
「まとまり・柔らかさ」	M	20.90	19.62	17.53	17.74	17.08 *	0.71	1.37
	SD	6.41	6.16	5.28	5.85			
「作品の了解」	M	8.33	8.92	7.68	8.26	8.81 **	6.98 **	0.00
	SD	1.78	2.12	1.67	2.20			

** $p<.01$, * $p<.05$